

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立入間向陽高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	校訓や教育目標を踏まえた学校像である。長い間同じ学校像が続いているので、学校内外の環境分析を行い、生徒・保護者の変容、時代の変化を意識するとともに、学校が大切にしてきたもの、特色や強みなどを生かした具体的かつ魅力あるものとしていただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	前年度の目標の一部を見直し、「学習習慣の確立」という学校の喫緊の課題に対応した新たな視点が加えられた。長らく同様の目標が続いているので、学校の置かれた状況などを把握した上で、中期的な視点から、更に検討・整理して目標の重点化を進めることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会を中心に分掌・学年・委員会等が連携して学校自己評価システムが運営されている。年度末に実施している総括と本システムとをうまく有機的に結び付けてその運営体制を整えるとともに、年度の達成目標としての評価項目をより重点化したものにして、学校の課題解決に一層取り組んでいただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	企画委員会内に小委員会を設置して「初期学習指導」を行うなど、課題解決に有効な方策が実施されている。シート上の方策がやや抽象的であることから、課題の分析に基づいたより具体的なものを策定するとともに、達成度を正しく判断できる具体的な評価指標を設定して、計画的に取り組めるようにすることが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は課題を的確に把握し、教育力向上を図るべく、教職員を信頼し一人一人の能力を生かして取り組んでいる。そうした校長の思いを教職員に伝えて経営ビジョンの浸透と共通理解を図り、課題の解決に向けて学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	学校自己評価システムの一環として「入間向陽高校をよくする会」がよく機能しており、生徒を含めた学校関係者の意見等を上手に引き出している。ここで出された意見等を学校自己評価システムに生かすとともに、スパイラルアップを意識しながら、学校改善のためのPDCAサイクルをより良く回していただきたい。	
特記事項			